

ジヤトコ株式会社

所在地:富士市 創業:平成11年 資本金:299億3,530万円 従業員数:6,649人
(男性6,107名、女性542名) 業種:変速機および自動車部品の開発・製造及び販売

◆労働時間の「見える化」を推進し、時間外労働を削減するとともに、休暇制度や在宅勤務の利用率を高めることにより生産性の向上を実現。

- ・労働（残業）時間をリアルタイムで把握し、長時間労働を抑制するとともに、ライフサポート休暇制度の創設や在宅勤務制度の拡充により従業員の生産性向上を実現。



（きつかけ）
取組前

労働（残業）時間管理

- ✓ 残業時間の累計が36協定で定めた限度時間ぎりぎりになり、業務に影響が出ることが多かった。

育児・介護休暇等の制度

- ✓ 法定の育児・介護休暇や企業独自の結婚休暇などの制度はあるものの、利用が低調であった。また、「上司の理解がないので取りにくい」といった声も聞かれた。

在宅勤務

- ✓ 在宅勤務（テレワーク）制度はあるものの、週16時間までと柔軟性に欠けることから拡充を求める声があった。

取組内容や仕組み

労働時間の「見える化」のためのシステムを導入

- ✓ 間接部門については、パソコンのログオン・ログオフ時間を自動的にデータとして集積するほか、現場部門についてはカードリーダーを順次導入し、リアルタイムでの労働時間管理が行えるようにした。
- ✓ データは人事部門と各部門の管理者が随時確認できるようになったほか、設定された「限度時間」に近づくと、人事部門から注意喚起メールを送信することとした。
- ✓ 労働時間管理に関する「手引き」を作成し、管理者のみならず一般社員にも社内インフラを経由して周知・啓発を図った。

ライフサポート休暇制度の創設

- ✓ 各種制度について、「ライフサポート休暇」として取りまとめを行い、ガイドブックを作成して、管理者のみならず一般社員にも社内インフラを経由して周知・啓発を図った。

在宅勤務制度を拡充

- ✓ 在宅勤務の上限について、週16時間から月64時間へと大幅な拡充を図った。

取組後（効果）

労働（残業）時間の適正化

- ✓ 労働時間がリアルタイムで把握できるようになり、迅速な対応が図れるようになった。

休暇制度の利用率向上

- ✓ 「ライフサポート休暇」という名称で取りまとめられたガイドブックが広く従業員に周知され、各種休暇の取得率が向上した。（年次有給休暇取得率（平成28年75.3%→平成29年86.9%））

在宅勤務の利用率向上

- ✓ 在宅勤務の利用率が向上し、効率的に業務が行えるようになり、労働生産性が向上した。